

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスセンター こころね			
○保護者評価実施期間	令和7年12月19日 ~ 令和8年1月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36人	(回答者数)	31人
○従業者評価実施期間	令和7年12月19日 ~ 令和8年1月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月29日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	●日常生活動作の獲得や経験値が積める支援	<ul style="list-style-type: none"> ●身辺自立の支援（健康・生活） <ul style="list-style-type: none"> ①衣服の着脱 ②食事動作 ③排泄の自立 ④手洗いや歯磨き ⑤清掃 ⑥買い物 ●感覚や運動機能の向上支援（運動・感覚） <p>日常生活動作を通して身体の使い方や感覚入力を調整し、安定した活動参加を促せる様に支援。</p> ●集団行動での過ごし方支援（認知・行動） <ul style="list-style-type: none"> ①他児・他者との距離感、②集団での役割を果たす。 ●挨拶や自己表現の支援（言語・コミュニケーション） <ul style="list-style-type: none"> ①声のトーン、大きさ ②相手とのキャッチボール方法等。 ●失敗や間違いからのリカバリー支援（人間関係・社会性） <p>成功体験だけでなく、失敗や間違い後の回復経験を積み重ね自己肯定感の維持を図る。</p> 	<p>学齢期から青年期に移行していく際に必要な、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①正しい挨拶やマナーを習得出来る支援 ②お金の管理や理解が深まる支援 ③公共交通機関の利用支援 ④時間の管理が出来る支援 <p>来年度は中学校に進学される方が多く利用者様の半数が中高生となる為、就労を意識しながらSSTに注力して社会性が育まれるように支援したい。</p> <p>又小学生に対しては経験値が積めるように日常生活動作の機会を多く提供し支援を重ねる。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ●学校も学年も障がい特性も違うひとりひとりが「こころね」の一員、仲間、集団として一丸となって他事業所と運動会を開催し勝利や敗北を分かち合ったり、反省会や練習方法を子どもで意見を出し合える様な支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運動会は今後も継続し新たな競技やゲームを増やし「こころね」として一丸となって仲間意識が芽生える様に支援を重ねたい。
2	●集団活動で仲間意識を育む支援	<ul style="list-style-type: none"> ●全員で取り組む畑活動 土おこし、草むしり、マルチかけ、水やり等を経て畑で育てた野菜を販売の販売活動。実際に野菜の育成から現金を得るまでの一通りの活動を通して他児らとの協力や協調を通して仲間意識を育む支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ●一年を通して野菜販売が出来るように、畑で育てる野菜の種類を増やしたい。又販路や商品企画なども子ども達と一緒に探し考え挑戦する力も合わせて育みたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有の機会を持つことが出来なかった。	保護者様からのアセスメントや計画相談のプランなどのみの情報で支援計画を立てている。過去一度も就学前の事業所と情報共有したことが無く積極的に動けなかった。	必要に応じて、就学前の事業所と情報共有出来るように準備を整える。
2	保護者やきょうだい支援が充実しているか。	保護者会は開催しているが、保護者様やきょうだい様同士が交流する機会の提案が出来切れなかった。親子運動会など企画を立てかけたが諸般検討課題が上がり、7年度は支援が届かなかった。	保護者様同士やきょうだい様同士の交流が図れるにはどんな場を提供したらよいか保護者様や利用者様に伺いながら企画を立ててゆきたい。